

令和5年12月4日（月）

友情のバッシュ

私は中学生の頃、バスケ部に所属してたんですが、同じ学年のチームメイトにかなり家が貧乏な A 君がいました。バスケシューズって、目が飛び出るほどの高額ではありませんが、やはり1、2万くらいはしますよね。だから A 君はどうしても親に言い出せず、いつも先輩に譲ってもらったお古のバッシュで練習していました。

A 君は家庭の事情にもめげずいつもニコニコして、練習はすごく真面目で、実際チームの中でも中心選手でレギュラーでした。もちろんチームメイトのみんなからの人望も厚く、本当にすごい奴でした。

しかし、いじめっ子グループからはいつも「お前、バッシュも持たんでよく部活にいれるなぁ？」などといつも嫌味を言われており、それが A 君や私達の悩みの種でした。

そんなある日、キャプテンをしている同学年の B 君が突然「ミーティングするぞ、ただし A には内緒だぞ」と言い出しました。

みんな何を話し合うんかな、などと言いながらミーティングに出席しました。

B 君は「みんなで少しずつ金を出し合って A にバッシュをプレゼントしないか？ただし、親から貰った金じゃなく、自分で稼いだ金だ」と切り出しました。その後の話し合いで、B 君の知り合いの新聞配達の人が、そういう事情なら期間限定でも雇ってくれるということらしく、そこで2ヶ月みんなで新聞配達する。でもプレゼントだと多分 A 君は皆に負い目を持つだろうから、これまた近所のスポーツ店のおっさんに頼んで、福引きでうまく A 君に当たりをひかせ、バッシュをゲットさせるという作戦になりました。

それからの2ヶ月間はまさに青春でした。

友達のために全員が一丸となって新聞配達しました。まあ、友情に尽くす自分たちに酔ってるところもあったんですけど。そしてついに目標の2万円が貯まり、作戦がスタートしました。スポーツ店に行って、まず皆でバッシュをワイワイ選びました。そして店主に頼んで偽モノの福引セットをスタンバイしてもらいました。

作戦決行の日、B 君が A 君に「ちょっと買い物したいからスポーツ店に行こうや」と誘います。そこで B はちょっとしたもの（リストバンド？）を買いました。

店主は「いまちょうど感謝セールで福引やっとなるから一回引いてみな、特賞はバッシュだぞ」と、なかなかの演技をみせてくれます。

B 君は A 君に「お前引いてよ、おれくじ運悪いから」と譲ります。

A 君はエイヤッとくじを引きました、ビリッとくじを破り、中を確認します。「特賞」

と書いてあるくじを見た時の A 君の表情は忘れられません。

私たちはドアの隙間から一部始終を確認し、お互いにガッツポーズを決めました。

その次の日から体育館には、かっこいいバッシュを履いた A 君の姿とそれをつまらなさそうに見るいじめっ子達、それを見てほくそ笑む私たちの姿がありました。